

当院のシンボルマークは、患者さまに対する「まごころ」を漢字の「心」で表現しています。

まごころ

MAGOKORO



地方独立行政法人

下関市立市民病院

SHIMONOSEKI CITY HOSPITAL

2023年 vol.43



▲多職種が連携するチームとして、患者さまの糖尿病治療をサポートします。

特集 内分泌代謝疾患と最近の糖尿病治療

がん診療コーナー 口腔底がん（口底がん）

お知らせ 第1回市民公開講座を開催しました ほか

もっと知りたい 救命センター看護師

地域の絆 かよ皮ふ科クリニック

重本内科

2023.12.1 下関市立市民病院広報年報委員会発行

下関市立市民病院

基本理念

安心の優しい医療を提供し、
市民から信頼される病院を目指します

基本方針

- 市民のニーズに応じた最善の医療を提供します。
- 重点診療項目として、悪性疾患、救急及び生活習慣病に取り組みます。
- 安定した健全な病院経営を目指します。

最近の糖尿病治療



今回は内分泌代謝疾患、そして最近の糖尿病診療についてご紹介いたします。

内分泌代謝疾患

内分泌代謝疾患は、ホルモンの異常によって起こる病気です。ホルモンとは、体内のさまざまな臓器で作られ、血液などを介して標的となる細胞（標的臓器）に到達し、体の健康維持のためにいろいろな機能を調節する情報伝達物質（メッセンジャー）です。

ホルモンを作る内分泌臓器には脳下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、精巣・卵巣などがあります。糖尿病に関わるインスリンも、膵臓で作られるホルモンの一つです。

ホルモン異常の多くは、産生が過剰か、不足しているかのいずれかであり、それによってさまざまな症状や合併症が起ります。

ここでは、内分泌代謝疾患のなかでも比較的患者さまが多く、地域の医療機関からもよくご紹介いただくバセドウ病についてお話しします。

糖尿病内分泌代謝内科医長

河野 倫子

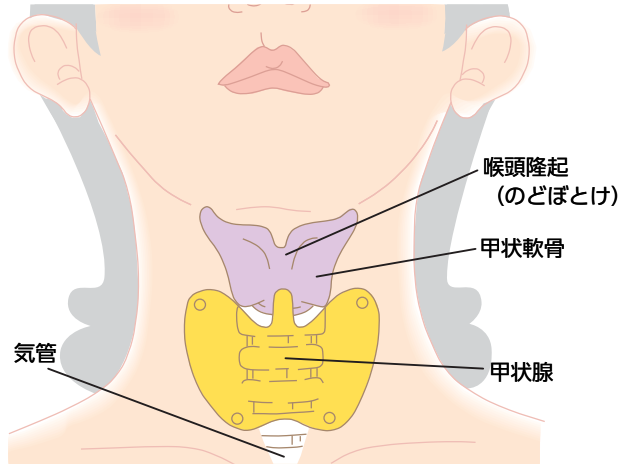
はじめに

当院の糖尿病内分泌代謝内科は、医長河野倫子、医師鍋島公喜の2名で診療にあたっています。

糖尿病の治療には薬物療法、インスリン治療などがありますが、その土台として、食事・運動療法が重要です。そのため、糖尿病の診療には医師だけでなく、看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、公認心理師、臨床検査技師など多職種が関わっており、患者さまの治療継続をサポートしています。一同でカンファレンスを行い、よりよいサポートができるよう話し合いを行っています。

また、当科では内分泌代謝疾患についても、専門的な診療を行っています。

バセドウ病



バセドウ病は、TSHレセプター抗体という「自己抗体」が甲状腺を刺激することにより、甲状腺ホルモンが過剰に産生される病気です。

抗体は本来、ウイルスや細菌などの外敵（抗原）から体を守るものですが、外敵ではなく自己の細胞を抗原として認識してしまうのが自己抗体です。なぜこのような抗体ができるのかはまだ解明されていません。

女性に多い病気であり、男女の比率は男性1人に対して女性5〜6人程度です。20〜50歳代の方に発症す

ることが多く、なかでも20〜40歳代の発症が最も多くなっています。

バセドウ病の症状

甲状腺ホルモンは全身の代謝を活発にする働きがあります。甲状腺ホルモンが過剰に産生されると、じつとじていても激しい運動をしているような状態になります。

たとえば、脈が速くなる、疲れやすくなる、汗を異常にかく、食欲は増しているのに体重は減る、イライラする、下痢になる、などの症状が出ます。そのまま治療されずに経過すると、不整脈や心不全を発症し、命に関わることもあります。

バセドウ病の診断と治療

診断には血液検査（FT3、FT4、TSH、TSHレセプター抗体などの測定）、甲状腺エコーなどが行われます。

治療は薬物療法が主で、多くの場合は薬物療法で甲状腺ホルモンは正常化し、数年で治療を終了できる場合もあります。一方、なかには薬物療法ではコントロールできない難治例もあり、その場合は手術療法やアイソトープ治療が検討されます。

患者さまと相談しながら、必要が

あれば他の診療科や医療機関と連携して診療を行っていきます。

最近の糖尿病治療

糖尿病の治療は日々進歩しており、新しい薬剤や機器が次々と登場しています。

新しいインクレチン製剤であるGIP/GLP-1受容体作動薬は血糖改善及び体重減少作用があり、特に肥満症を合併する2型糖尿病の治療に有用性が期待されています。



▲リアルタイムCGM



▲インクレチン製剤

リアルタイムCGM（持続血糖モニター）は、簡便かつ即時的に血糖を測定することができ、血糖変動を把握することでよりよい血糖マネジメントにつながる機器です。2022年4月に保険適用が拡大し、より多くの患者さまが活用できるようになりました。

また、1型糖尿病のなかでも血糖マネジメントが困難な方に使用されるインスリンポンプも、改良が進み新しいシステムが搭載されたものが登場しました。



▲インスリンポンプ

当院では患者さまの病態やニーズにあった治療内容を提案します。新型コロナウイルスの感染防止のため、この3年間糖尿病教室を開催できず、個別の指導のみとしていましたが、現在、糖尿病教室の再開に向けて鋭意準備を進めており、近々再開できる予定です。

おわりに

内分泌代謝疾患は、甲状腺疾患、副腎疾患、脳下垂体疾患、副甲状腺疾患など多岐にわたります。これらの病気の精査をご希望の場合はぜひ当科を受診いただければと存じます。また、糖尿病についても、引き続き地域のみなさまに貢献できるように、より一層努めてまいります。



口腔底がん (口底がん) とは



口腔内に発症するがんを口腔がんといいます。発症部位により、舌がん、口腔底(口底)がん、硬口蓋がん、上顎(下顎)歯肉がん、頬粘膜がんに分類されます。

口腔がん自体、希少がんに分類され、発症率はがん全体の1~3%にすぎません。その内の60%は舌がん、口腔底がんの割合は9.7%です。

男女比は4:1となっています。

特徴として、特に初期は痛みを伴わず、舌の影となっているため異変に気づきにくいことが挙げられます。

多くは口底部の潰瘍と硬結を伴う腫瘤を自覚し発見されます。また、口底には顎下腺管が存在し、がんによる唾液の流出障害が生じ、顎下腺の

腫脹から発見されることもあります。

口腔がんの90%は扁平上皮がんですが、舌下腺などの唾液腺から発症するがんの可能性も比較的高いことも特徴のひとつで、舌下腺腫瘍のほとんどは悪性といわれています。

口腔底がんの危険因子

他の口腔がんと同様、喫煙、飲酒、慢性の機械的・化学的刺激、ウイルス感染などです。特に喫煙は口腔がんの最大の危険因子と考えられています。慢性刺激としては、傾斜した歯、歯牙への不良充填物、不適合義歯などが挙げられます。ウイルス感染、特にヒトパピローマウイルス(HPV)が中咽頭がんと同様に口腔がんの発症に関与していると考えられています。

口腔底がんは、他の口腔がんと同様、頸部リンパ節へ転移する性質が

あり、その頻度は舌がんと同様、高いとされています。初診時に顎下リンパ節に転移が認められるケースは45~55%です。

口腔底がん治療法及び予後

治療は手術が主となります。放射線や抗がん剤も効果はありますが、特に放射線治療は顎の骨に対する副作用が強く出るため、手術療法が第一選択となります。

ただし、進行がんに対しては、放射線療法、抗がん剤治療が併用されることもあります。予後は一般的に不良で、5年生存率は約49%です。治療成績向上のためには早期発見が最も重要です。口腔底に限らず口腔に何か異変を自覚した際は、すみやかに口腔外科を受診してください。

<歯科系統括部長> 上原 雅隆

令和5年度 **第2回 市民公開講座**

糖尿病にもいろいろある

糖尿病の診断と分類

2型糖尿病と1型糖尿病、妊娠糖尿病

講師:糖尿病内分泌代謝内科医長 河野 倫子

2024年1月20日(土) 10:00~11:00 (9:00開場)

120名(受付先着順) **参加費無料**

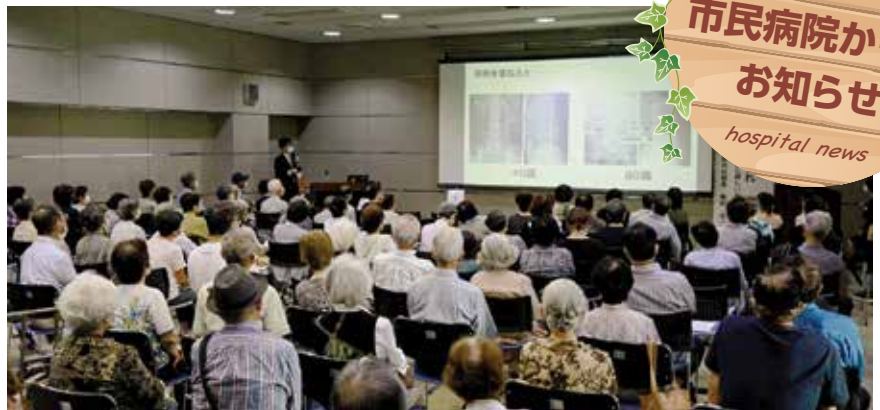
会場 下関市立市民病院2階講堂

1月19日(金)までに、電話、FAX、Eメールで、経営企画グループまでお申し込みください。FAX、Eメールの場合は必要事項(氏名(ふりがな)、電話番号、参加人数)を明記の上、お送りください。

☎ 083-231-4111 (代表)

FAX 083-224-3838

✉ keiei@shimonosekicity-hosp.jp



第1回 市民公開講座を 開催しました

9月30日(土) 当院において、新型コロナウイルス感染症流行後、約4年ぶりとなる市民公開講座を開催しました。

今年度第一回目となる今回は、「お尻の痛みや足のしびれ、腰部脊柱管狭窄症の少し詳しいお話」と題して、当院整形外科部長の飯田圭二郎による講演を行いました。定員を超えるお申し込みをいただき、あらためて市民の皆さまの健康に対する関心の高さに驚かされました。

当日は多くの方々にお越しいただき、大盛況のうちに幕を閉じることができました。ご来場いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

第72回日本病院学会優秀演題受賞!

SQLを用いた『内製システム構築』および『RPA導入』による業務改善への取組

第72回日本病院学会優秀演題を受賞した「SQLを用いた『内製システム構築』および『RPA導入』による業務改善への取組」が2023年9月21日・22日に仙台で開催された第73回日本病院学会で表彰されました。受賞した当院事務部長経営企画グループデータ分析班長 源順二のコメントを紹介いたします。



当院の医療DXの取組み

私は院内システムエンジニア(医療情報技師)として従事していますが、昨今の医療DX推進の波に当院も追随すべく、「データサイエンティスト」としての役割も求められるようになりました。今年度からは本格的に「データ分析班」を新たに立ち上げ、班長を拝命いたしました。

そのような中、2022年7月の第72回日本病院学会で発表した演題が優秀演題に選ばれ、先日の学会で表彰されました。

当院で取り組んできた活動内容に対し、一定の評価をいただいたことは、今後のビジョンを築いていく上で大きな自信となりました。

発表内容と今後について

学会では院内業務改善活動について発表いたしました。

具体的には、SQLというプログラミング言語を用い、院内のコンピュータに日々蓄積される診療情報を抽出・加工することで業務支援を行うシステムの構築、PRA(Robotic Process Automation:人がパソコン上で日常的に行っているデータ入力作業やソフトウェアの操作を、ソフトウェアロボットが代わりにを行い、作業を自動化する仕組み)を用いて、画像診断・病理検査結果を未確認の医師に対して確認を促すメールを自動配信する仕組みの開発などについてです。

今後も継続して学会発表で当院

の取組みを情報発信し、それをきっかけに他の病院でも同様の活動が進むことを願っています。

今までの取組みについての事例紹介等が下記より閲覧できますので、ご覧いただけたら幸甚に存じます。

株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパンwebサイトより

・事例紹介

<https://www.ghc-j.com/case/dashboard/case-12275/>

・病院経営コラム

<https://www.ghc-j.com/column/12290/>



新設 総合診療科 新任医師ご紹介

2023年9月より、総合診療科を新設し、中塚昭男医師を総合診療科部長として迎えました。

総合診療科では、診療科が定まらない患者さまがどのような治療が必要かを見定め、各診療科への紹介などを行っています。

ご紹介

9月より勤務しております総合診療科の中塚昭男です。主に救急科と協力して救急搬送患者等の初期診療を担当しています。

今回、36年ぶりに生まれ育った下関に帰ってきました。これまで、外科医、救命救急医、地域医療医(総合診療医)として勤務してきた経験を生かし、故郷下関の救急医療に、微力ながら貢献していきたいと思っております。どうぞよろしく願いたします。



総合診療科部長
なかつか あきお
中塚 昭男



看護部
副主任
木原 智行
きはら ともゆき

毎年1月初旬に1階ロビーをはじめ院内に干支を題材とした書道作品が展示されているのをご存じでしょうか。今回の「もっと知りたい」では、当院看護師で書道家でもある木原智行をご紹介します。

短い展示期間ではありますが、機会があれば、ぜひご覧ください。

院内では干支の作品のほかに、看護研究発表会のプログラムなどでもその腕前を発揮されていますが、書かれることになったきっかけを教えてください。

主任会や教育委員会からの働きかけで始めることになりました。



▲誰にでもできるようなことを、誰にもできないくらい続けることができれば、様々な場面で大きな力や自信につながると思っています。

書道をはじめたのはいつからですか？

小学1年生からです。友達が習っていて興味を持ち習い始めました。

書道をしていて良かったことを教えてください。

社会人になってから、祝儀袋や命名書、感謝状書きなど、書に関する依頼をされるのがたくさんあります。自分が得意とする分野で役に立ち、ひとに喜んでもらえることで、自分も嬉しく幸せになるという経験を多くすることができました。その度に書道が続けてきて良かったと感じます。

書道が続けてきたことが、看護の現場で活かされたことなどあれば教えてください。

書道に関してはただ長く続けてきただけですが、この続ける力が仕事に活かされた経験があります。

看護研究を行った際に膨大な数のデータを収集しました。仲間と毎日少しずつ進めましたが、とても忍耐力を必要とする作業でした。しかし幼い頃から培った継続する力で集中して取り組むことができました。看護の質向上のためのヒントがデータの中より見出され、現在の看護につながっています。

仕事をしていくうえで大事にしていることは何ですか？

救命センターではたくさんさんのモニターに表示される数値があります。数値に目が行きがちですが、数値だけに捉われず患者さまの全体像をみるようにしています。

休日の過ごし方や、最近ハマっていることなどを教えてください。

休日のほとんどは子どもの行事に費やしています。カメラを持ち、今しかない瞬間を日々写真に収め、楽しんでいきます。



緩和ケア看護認定
看護師

ながくら ひろえ
長倉 博絵



緩和ケアという点、どうしても死に直面して必要となるものと考えがちですが、がんや診断された時、治療中、治療を終えた時など、その時々を感じる辛さや苦痛に対応します。痛みをとることだけでなく、今まで通りに近い日常生活が送れるよう必要な支援を一緒に考えます。

まずは希望をうかがうことからはじめます。お声かけください。

地域の絆

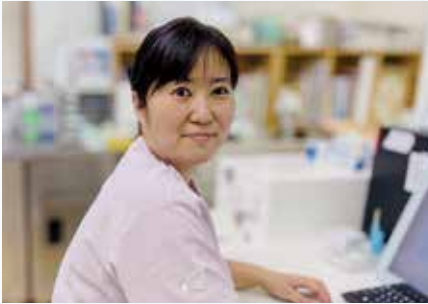
当院と連携している医療機関等を紹介します。
登録医の先生と当院とは、患者さまの病状に合わせた治療が行えるよう、密接な関係をつくっています。

下関市立市民病院 地域連携室

電話：083-224-3860 FAX：083-224-3861

かよ皮ふ科クリニック

院長 やまもと 山本 かよ 佳世 先生



令和5年5月10日、梶栗町に「かよ皮ふ科クリニック」を開院いたしました山本佳世と申します。

わたしは下関で生まれ育ち、産業医科大学へ進学、卒業後は関門医療センターで初期研修を行いました。その後は、産業医科大学皮膚科学教室へ入局し、産業医科大学病院、JCHO九州病院（旧九州厚生年金病院）へ勤務、産業医もつとめました。産業医科大学病院では外来医長、アレルギー専門外来、乾癬専門外来を担当させていただきました。このたび、西山皮ふ科の西山和光先生より

クリニック承継のお話をいただき、開院のはこびとなりました。研修医時代に3か月間、西山先生のところでお世話になったのがきっかけで、西山先生がご引退されるのと同時に承継させていただきました。下関の北部の方には皮膚科がないため、遠方からも受診されます。西山先生の患者様と向き合う姿や初期対応の大切さなど学ばせていただき、あの場所の皮膚科をなくしてはならないと強く思い、今に至っております。これまでの経験を活かし、育ててもらった下関のみなさま、先生方への恩返しのお気持ちをこめて、これから精進していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

〒759-6614 下関市梶栗町3-7-8 TEL：083-262-1277 <皮膚科>
月・火・水・金：9:00～12:30、14:00～18:00（受付17:30まで） 土（第2・第4のみ）：9:00～12:30 ※火曜日14:00～14:30は手術優先

重本内科

副院長 しげもと 重本 しょう 翔 先生

重本内科 副院長の重本翔と申します。2022年4月より、当院は重本歴院長、重本翔副院長の2診体制で診療を行っております。私は、幼少期は兵庫県西宮で過ごし、10歳の時に父の郷里での開業に伴い下関に引っ越してきました。山口県立下関西高校を卒業後、大阪医科大学に入学し、卒業後は同学附属病院の糖尿病内科に入局しました。同院糖尿病内科は、1型糖尿病の研究を中心としており、1型糖尿病の患者さんに対し、欧米で主に使用されている24時間持続血糖モニターやインスリン持続注入ポンプを使用しての治療を積極的に行っておりました。また、月に一度、市立ひらかた病院での救急当直を行っておりました。



重本歴院長

重本翔副院長

40歳を機に、再び下関へと戻り、父の開業する重本内科での勤務を開始しました。様々なインスリン、GLP-1受容体作動薬の登場など、目覚ましく発展する糖尿病の治療について、これからは、地元の黒井で、一般内科・糖尿病内科医として、地域医療に貢献してまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

〒759-6312 下関市豊浦町大字黒井2366-1 TEL：083-774-4353 <一般内科、糖尿病内科>
月・火・木・金：9:00～12:30、14:00～18:00 水・土：9:00～12:30

外来診療のご案内

2023年11月1日現在 (※)…非常勤医師

診療科		曜日	月	火	水	木	金
総合診療科			中塚 昭男	中塚 昭男	中塚 昭男	中塚 昭男	中塚 昭男
内科・消化器内科			大草 響/加来 寿光	保利 喜史	大草 響	保利 喜史	加来 寿光
内科・呼吸器内科			山口 雄大(※)(午前)				鳥井 亮(※)(午前)
内科・循環器内科			金子 武生/野田 裕剛	金子 武生	安田 潮人	辛島 詠士	辛島 詠士/有馬 岳史
禁煙外来(午後・予約制)					金子 武生		
内科・腎臓内科				坂井 尚二	安宅 映里(※)(午前)	中村 亜輝子(※)(午前)	
内科・血液内科				久保 安孝		久保 安孝	
内科 リウマチ膠原病内科			大田 俊一郎 甲斐 達也(※)(午前)	大田 俊一郎 (地域連携室 紹介のみ)	大田 俊一郎 久志本 和郎	木村 光一(※)(午前)	大田 俊一郎 久志本 和郎
糖尿病内分泌代謝内科			河野 倫子	鍋島 公喜	河野 倫子	河野 倫子	鍋島 公喜
神経内科(午前中・予約制)					本田 真也(※)		
精神科					原 正吾(※)		
心臓血管外科				上野 安孝/鬼塚 大史		上野 安孝/栗栖 和宏	
外科	午前		萱島 理/宮竹 英志 中原 千尋	川地 眸 中原 千尋	大谷 和広 宮竹 英志	萱島 理	川地 眸 大谷 和広
	午後		院長外来(院外紹介) 萱島 理/宮竹 英志	乳腺外来 川地 眸 中原 千尋	大谷 和広	ストーマ外来(第2・第4) 萱島 理	乳腺外来 川地 眸 大谷 和広 ストーマ外来(新患)第2・第4
呼吸器・抗酸菌症外来(呼吸器外科)			吉田 順一(要相談)	吉田 順一(要相談)	吉田 順一(要相談)	吉田 順一(要相談)	吉田 順一
呼吸器腫瘍センター(呼吸器外科)				井上 政昭		井上 政昭/名部 裕介	名部 裕介(午前)
脳神経外科			中村 隆治/尾中 貞夫	中村 隆治/田代 洸太	中村 隆治/尾中 貞夫		中村 隆治/尾中 貞夫 田代 洸太(午後)
整形外科	再診		杉田 敏明	太田 浩二/衛藤 凱	飯田 圭一郎 河野 敦	原田 岳 金海 光祐	渡邊 哲也(午後)/矢野 裕大 白澤 建藏(※)
	新患		太田 浩二 河野 敦	渡邊 哲也 矢野 裕大	飯田 圭一郎 原田 岳/杉田 敏明	飯田 圭一郎 衛藤 凱	金海 光祐 白澤 建藏(※)(午前)
皮膚科	一診(初診)		榊原 亜有美	平儀野 剛	吉弘 悟	平儀野 剛	榊原 亜有美
	二診(予約のみ)		平儀野 剛	吉弘 悟	榊原 亜有美	吉弘 悟	吉弘 悟
眼科			石村 良嗣	石村 良嗣	石村 良嗣	石村 良嗣 ロービジョン外来(第4午後)	石村 良嗣
放射線診断科				山砥 茂也			
放射線治療科			有賀 美佐子	有賀 美佐子	有賀 美佐子	有賀 美佐子(午前) 小野 太輝(※)(午後)	有賀 美佐子
小児外科					九大派遣医師(※)	中村 晶俊(※)(第2・第4午後)	
産婦人科	午前(一般外来)		前田 博敬(第1・第3・第5) 川崎 憲欣(※)(第2・第4)	前田 博敬	前田 博敬	前田 博敬	
	午後(更年期外来)			前田 博敬(予約のみ)			
疼痛外来 ペインクリニック内科	午前			藤原 義樹(※)			藤原 義樹(※)
	午後			藤原 義樹(※) 午後の外来は13~14時受付			門脇 史宜(※)
皮膚科			内田 寛/白水 舞 午後の外来は13~14時受付	内田 寛(午前) 白水 舞(午前)	内田 寛/白水 舞 午後の外来は13~14時受付	内田 寛(午前)/白水 舞(午前) 午後:手術	内田 寛/白水 舞 午後の外来は13~14時受付
耳鼻咽喉科			平 俊明 宮崎 孝	平 俊明 九大派遣医師(※)	平 俊明 宮崎 孝	平 俊明 宮崎 孝	平 俊明 宮崎 孝
歯科・歯科口腔外科			上原 雅隆 西川 健	上原 雅隆/西川 健 長畑 佐和子	上原 雅隆/西川 健 入学 陽一(※)(予約のみ)	上原 雅隆/西川 健 長畑 佐和子	上原 雅隆 西川 健
緩和ケア外来				牧野 一郎(午前中)(予約制)		牧野 一郎(午前中)(予約制)	
救急科(午前・午後)			中原 千尋/尾中 貞夫 中塚 昭男	尾中 貞夫	中原 千尋	中原 千尋/尾中 貞夫 中塚 昭男	中原 千尋/中塚 昭男

◆糖尿病教室 (要予約: 内科外来にお問い合わせください。)

◆ペースメーカー外来 (内科外来: 要予約) 毎月第3月曜日13:00~15:00 (第3月曜日が休日の場合は第4月曜日)

◆ロービジョン外来 (眼科外来: 要予約) 視覚に障害があるため生活に何らかの支障を来している方への支援

◆整形外科は再診・新患ともに完全予約制です。急患はご相談ください。

病院の最新情報は
こちらから



地方独立行政法人

下関市立市民病院

SHIMONOSEKI CITY HOSPITAL

〒750-8520 下関市向洋町一丁目13番1号

TEL:083-231-4111(代表) FAX:083-224-3838

ホームページアドレス <https://shimonosekicity-hosp.jp/>

地域連携室(紹介予約) 専用TEL:083-224-3860 専用FAX:083-224-3861

禁煙外来を行っています。当院は敷地内禁煙です。ご協力をお願いします。